

スーパーグローバル大 外国人教員等

文部科学省のスーパーグローバル大学支援について荻谷剛彦
オックスフォード大学教授は、国際化を担う「外国人教員等」
の多数は外国での教育研究歴が1〜3年の日本人教員で、高度
な授業を外国語でこなすのは心もとない」と指摘する。



荊谷 剛彦

オックスフォード大教授

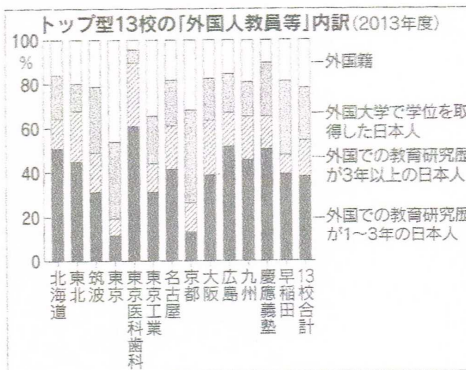
行、トップ大学・後者はこれまでの実績を基に、更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する大学とし、トップ型は1校あたり年間4億2千万円(標準支援額)、牽引型は同1億7200万円(同)を10年間支給する。

選考の結果、トップ型13校、牽引型24校が選ばれた。37校の構想調書を調べていくと、あまりに日本的なグローバル化の特徴が浮かび上がる。

文科省は昨年度から大学の国際化をさらに進める政策として、「スーパーグローバル（SG）大学創成事業」を始めた。トップ型とグローバル牽引（ひんいん）型の2つに分け、前者は、「世界大学ランキングトップ100」を自指す力のある、世界レベルの教育研究を

ランキング入りをめざすには、弱点といわれてきた外国語で教える教育を増やさなければならぬ。外国人教員や留学生の増加も必要だ。そのために、「世界を相手にする大学は5年以内に授業の3割を英語で実施する」といった具体的な数値を

実態は経験浅い日本人



目標が掲げられた。
SG大学の調査も大
学の現状(2003年度
と5年後、10年後の目標
を掲げている。トップ型
大学の平均値を計算する
と、現状では4・4%に
すぎない学部教育での外
国語(主に英語)の授業
を、10年後には14%に高
めることを目指してい
る。牽引型では、学部を
持たない大学、すでに
100%英語で授業を行
っている大学を除いては
平均値をみると、現状で
6%、10年後には25%に
増やそうである。文科
省目標よりほかに控え
めだが、それより3・4
倍に増やす必要がある。
外国語での授業を増や
すために調査で示される
のが、それを担う「外国
人教員等」の増員計画で
ある。各調査には、「教
員に占める外国人及び外
国大学で学位を取得し
た専任教員等の割合」が
「外国教員等」と略記
され表にされている。そ
の現状見ると、トップ
型で平均26%、牽引型で
は45%になっている。
(この数値はまた開闢、

外国で研究1~3年■手つかずの授業改善

省の「学校教職統計調査」で確認すると、全国の大学の専任教員のうち外国人は3・8%、日本人外国人も含め外国で学位を取った専任教員は4・6%にすぎない。これに比べ、いくつS.G.大学に選ばれた大学でも先の数字は大きすぎる。しかも10年後には、さらに拡大して、トップ型で平均43・9%、牽引型で65・2%にするというのだ。

しかし、ここには見事なかくりがある。調査

それが「外国人教員等」の約4割を占め、外国籍は約2割にとどまる。1年未満というところは、3年弱の研究休暇を2度海外で過ごせば満たせる経歴である。

「等」の弾力的解釈は官僚作文の典型だが、外国籍や外国で学位取得者が少数派で、それ以外が「外国人教員等」の多数派になるほどの拡大解釈がまかり通る。ここに、この政策の日本の特質が示されている。

国語にする。文字通り言葉の上だけの国際化しかもたらさない点である。

事前の文献読読も授業外でのレポート執筆もほとんど課さない講義中心型の授業を、週に十何種類ものこまぎれに履修すること

のが日本の大学教育の特徴（弱点）だと教わっていた。中央教育審議会が大学生の学習時間が短いことや求められる学習課題が少ない現状を指摘し、大学に改善を求めたのは2012年、わずか3年前のことである。

これは「外人教員」の内訳を4つのグループに分け、それぞれ数値を記入するようになってい
る。①外国籍教員②外国
の大学で学位を取得した
日本人教員③外国で通算
1年以上3年未満教育研
究歴のある日本人教員④
外国で通算3年以上教育
研究歴のある日本人教員
——である。

このうち、現状におい
ても将来計画においても
多くの大学で多数を占め
るのは、③の「外国で通
算1年以上3年未満教育
研究歴のある日本人教員」である。図に示すよ
うに、トップ型の現状は、
途半端なクローバル化が

一方で文科省は恒常的
な予算増の伴う専任教員
の定数増は計画していな
い。したがって、大学が
本気で外国人教員を増や
そうとすれば、日本人を
減らすのをを得ない。

外国で学位を取得した
日本人がすくには増えな
い中で、教育や大学運営
を円滑にする仕組みを維
持するには、日本人教員
の通算3年未満の外国国
籍を増やすのが大学にと
って賢い選択となる。小
中・高・大の各段階で、
途半端なクローバル化が

きく外れたこの実態は日
本語での教育の話だが、
それをそのままに、講義
の部分を外国語にした
も国際標準には近づけな
い。それに近い、より高
度な授業を外国語でこな
すには、3年未満の海外
経験では心もとない。講
義だけでなく外国語化なら
内容が薄まり教育全体の
質の低下を招いたのだ。

中途半端に終わるこ
いなら、予算もつけられ
語での通常の教育改善策
優先させたい。国際

3年前のことである
世界トップレベルの大

中学2年生のA子の父親から面談の申し込みがあった。私の塾では面談相手はほとんどが母親だが、A子は1年ほど前に母親をなくしている。

母の死を乗り越え

小学校は公立だったが多くの子供が中学受験をするため、6年生の算数の授業は、進度別に3段階のクラス編成をしていた。A子はそこで一番遅いクラスにいた。塾でも勉強に身が入らない様子でよく宿題を忘れてきた。きちんと向き合って教えると、理解が

勉強に家事に一生懸命

挑む

早いのに、出来ないのが不思議に思えた。

目標を持つと伸びるので、私は、私立中学を勧めたこともあったが、絶対に受験しないと断って地元の公立中学に進んだ。

一生懸命

中学生になって一月も経たないうちに、母親の計報が届いた。が、一年あまりの病弱の末、最後はホスビスで過ごしたいという。葬儀には参加したが、詳細い病気の経緯は一回の面談で、初めて知れた。がんばることも、本にも手付いたにも知らなかつた。母の病名を知って、人々は三日三晩泣いたという。葬儀から十日ほどで、

子は塾に来た。すっかりした顔をかけた。私はどう言葉をかけたらいいか分からず、何も言えなかった。復帰後、A子の態度に変化が表れた。毎回、その日の目標を決めて勉強するようになった。一緒に通っている妹の面倒をみることも多くなった。急に大人になったように感じた。2年に進級して、学校の成績を気にするようになった。試験の点数もアップした。志望校の文化祭に友達と出かける約束をした。

先日、塾で勉強していたA子は突然、「今日は早く帰らなきゃ」と言いました。父親が仕事で遅くなるので、夕食の支度をするのだという。

父親と面談してから、A子が家庭の事情を隠さず話してくるようになって、私はとても嬉しかった。同時に、A子の辛い毎日を想像で登がった自分を大変恥ずかしく思った。(平)

「大学の国際化」
名ばかりの懸念

ていると、日本の大学名ばかりの国際化に、
 たんたる思いになる。

「外国人教員等」が
 語で授業をするとい
 いながら、その多く
 を海外の教育研究経
 験が11年の日本人
 教員が占めたとし
 たら、羊頭狗肉(よう
 とうくうにく)とい
 うて仕方がない。

荻谷教授の指摘を聞い

(橫)